

はじめに

綴喜古墳群は、現在の京田辺市から八幡市にかけて広がる古墳時代前期後半(4世紀後半ごろ)を中心に築造された古墳群です。綴喜古墳群は約30基の古墳から構成されますが、そのうち4つの古墳(京田辺市域:天理山古墳群・大住車塚古墳・飯岡車塚古墳、八幡市域:八幡西車塚古墳)が令和4年11月に国指定史跡に指定されました。そのうち天理山古墳群は、国指定名勝の方丈庭園を有する酬恩庵一休寺の裏山に所在している、前方後円墳2基と前方後方墳1基の計3基で構成される古墳群です。天理山3号墳は、昨年度の調査で古墳の両端を確認し、全長82mという市内でも最大級の規模を誇ることが確認されました。今年度は昨年度に引き続き、3号墳の規模や構造等の確認を行うため発掘調査を実施しました。

調査成果

○前方部南側(第1調査区)

前方部南側の古墳の斜面と、それに伴う基底石・葺石・樹立埴輪を検出しました。検出した斜面の長さは約8.5mです。上段斜面と下段斜面には基底石と葺石を検出しました。前方部において良好な状態で基底石を検出したのは初めてです。基底石は長辺20~25cmのものが多いですが、中には長辺約30cmと特に大きい基底石もみられます。基底石は石材を横向きに配置し、斜面と平坦面の境界付近に一列に並べて設置しています。葺石は基底石よりも小さい10~15cmの石材を斜面に設置しています。また上段斜面の外側(中段平坦面)で、樹立した状態の埴輪を1本検出しました。埴輪は中段平坦面の際に立てられており、埴輪の直径は約37cmです。これまでの調査で天理山3号墳から出土した埴輪のサイズも直径35~37cmであり、高い規格性をもって作られた埴輪と推測されます。

○前方部北側(第2調査区)

前方部の北側斜面を約8.5mにわたって検出しました。上段斜面では、前方部南側(第1調査区)で検出した上段斜面と同様に、基底石・葺石を検出しました。上段斜面では斜面の上方は葺石が流出していますが、斜面の裾付近では良好に残っており、約1mにわたって葺石を検出しました。上段斜面の外側(中段平坦面)で樹立した状態の埴輪を1本と、埴輪が樹立していたと思われる痕跡を検出しました。埴輪の直径は約35cmです。中段斜面および下段斜面はほとんどの葺石は流出していますが、わずかに葺石が残っています。

調査のまとめ

今回の調査では、前方部の北側と南側の斜面を初めて調査し、約8.5mにわたり古墳の斜面を検出しました。葺石や埴輪は部分的に流出している箇所もありますが、本来は古墳全体に存在していたと考えられます。また墳丘の裾を想定より内側に検出したことで、前方部の幅が狭くなり、古墳時代の中でも前期に多くみられる形を呈する古墳であるといえます。古墳の築造時期は出土した埴輪から古墳時代前期末頃(西暦400年頃)と考えられます。

最後になりましたが、今回の発掘調査にご参加いただいた皆様、地元の皆様、ご指導・ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

国指定史跡綴喜古墳群 天理山3号墳の発掘調査 第4次調査

編集・発行 京田辺市市民部文化・スポーツ振興課

発行日 令和7年12月6日(土)

〒610-0393 京都府京田辺市田辺80 TEL 0774-64-1300



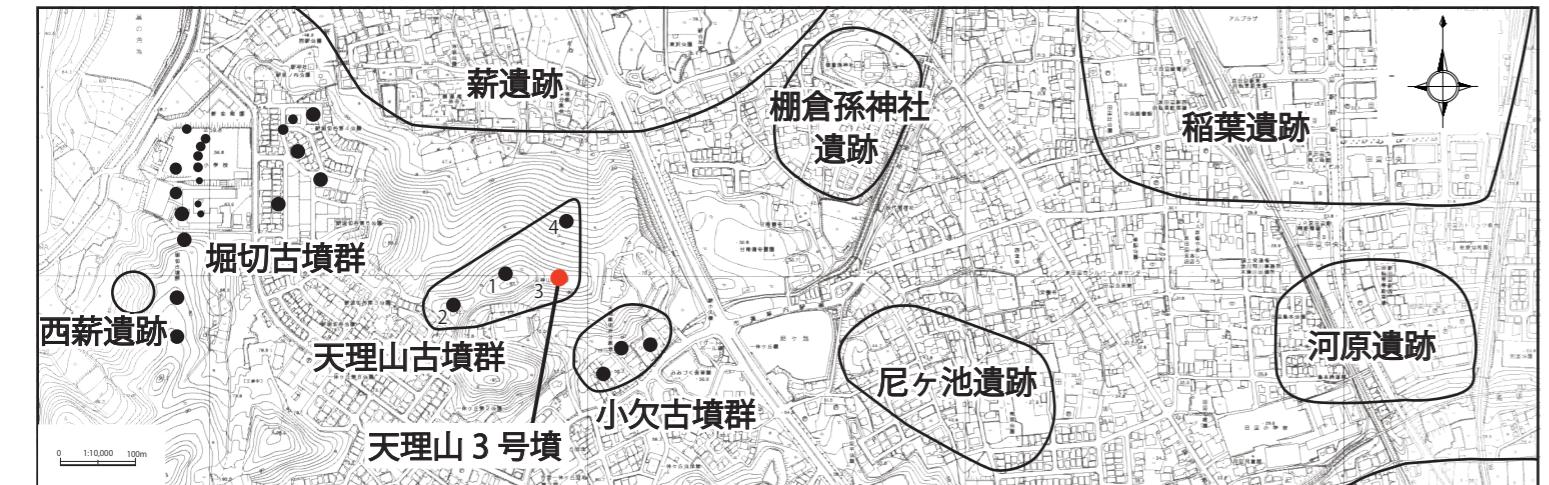


図1 周辺の遺跡

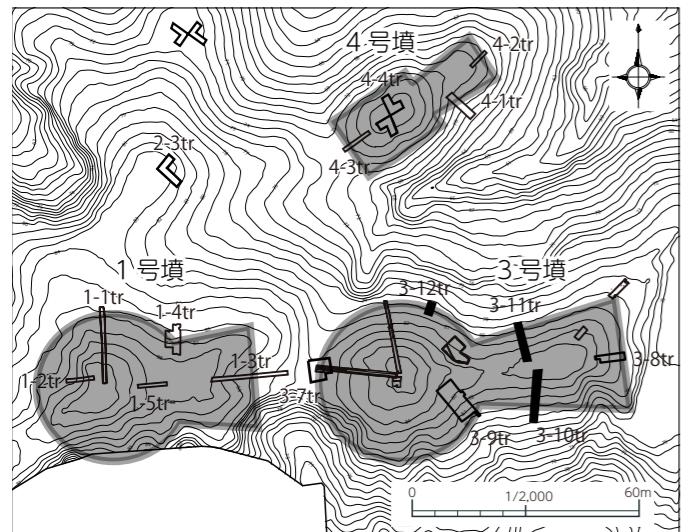


図2 天理山古墳群（黒塗りが今回の調査区）

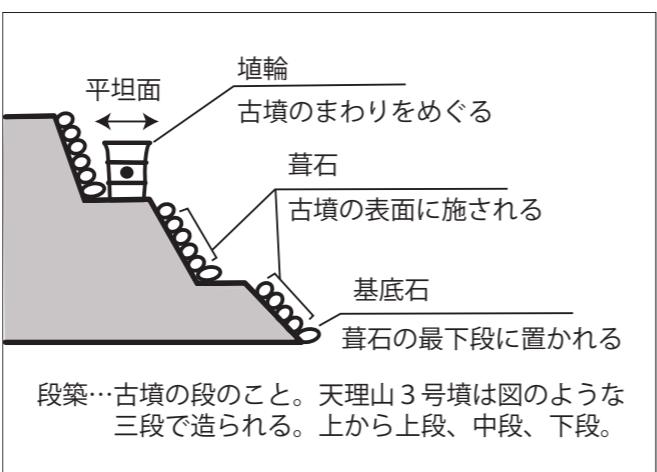


図3 古墳の略図

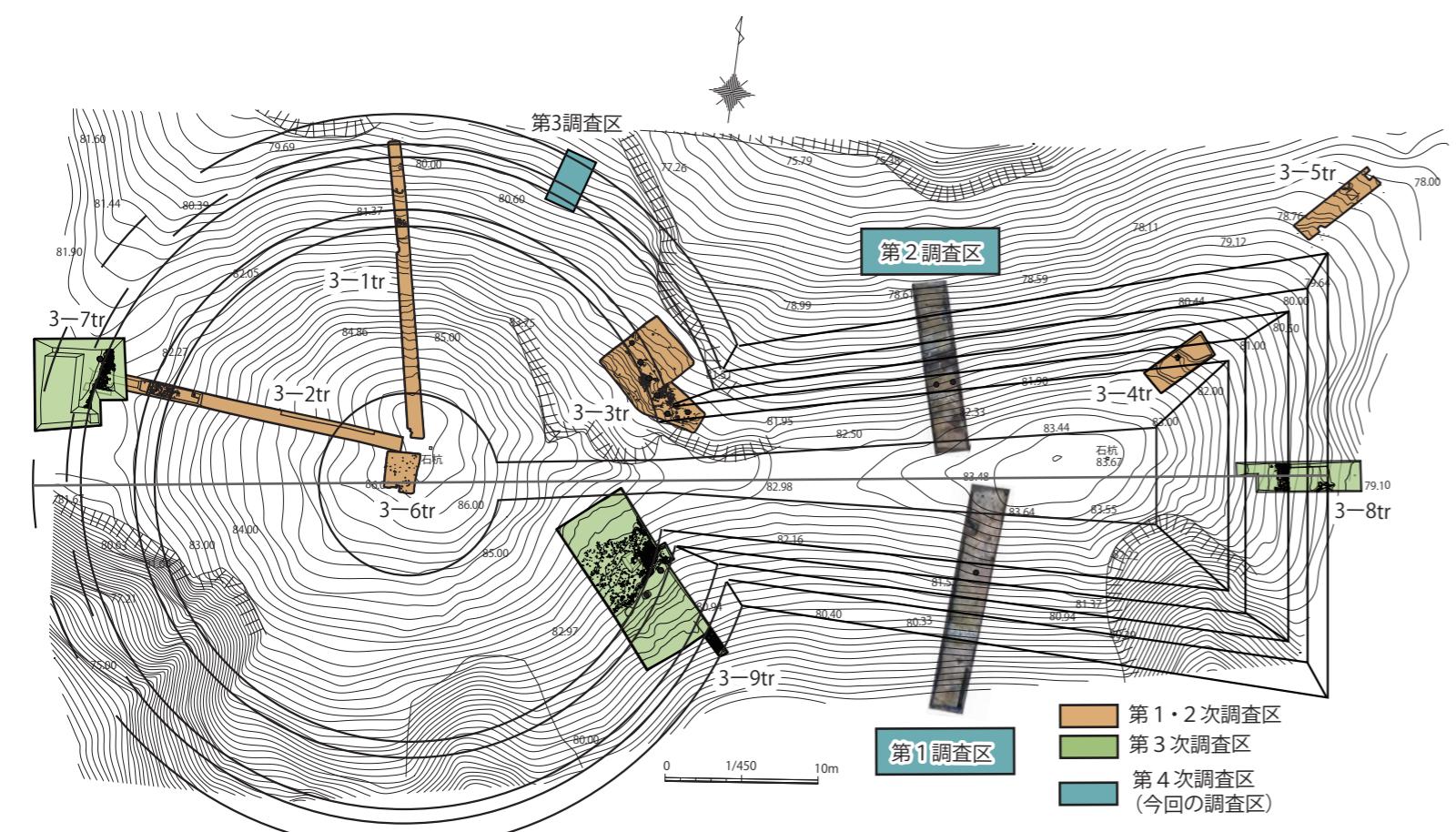


図4 天理山3号墳 復元図



第2調査区 前方部北側
中段テラス墳輪 (北東から)



第1調査区
前方部南側
上段斜面・
中段テラス (南から)



第1調査区 前方部南側斜面 (南から)